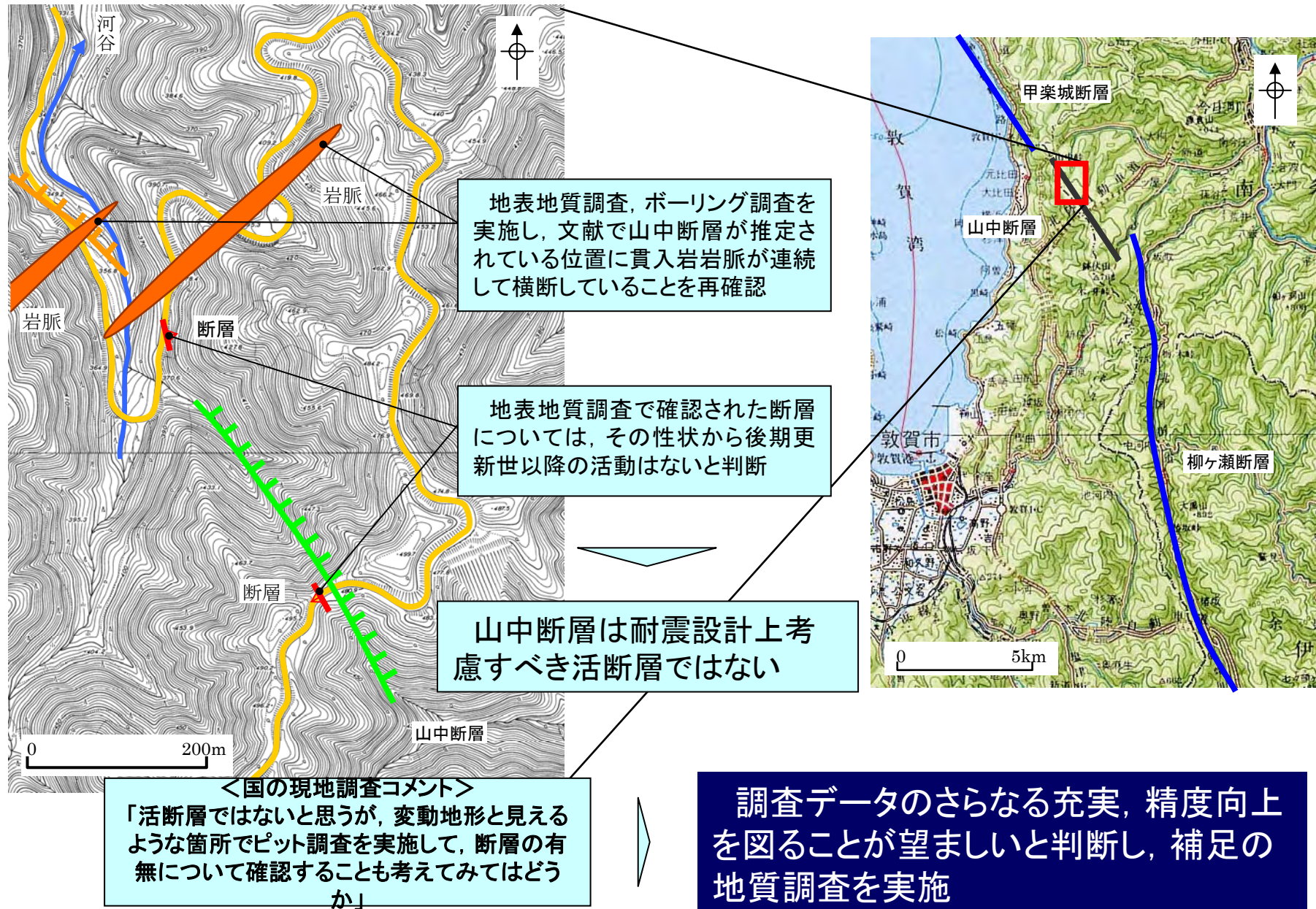


新耐震指針に照らした耐震安全性評価 のうち活断層評価について (補足地質調査について)

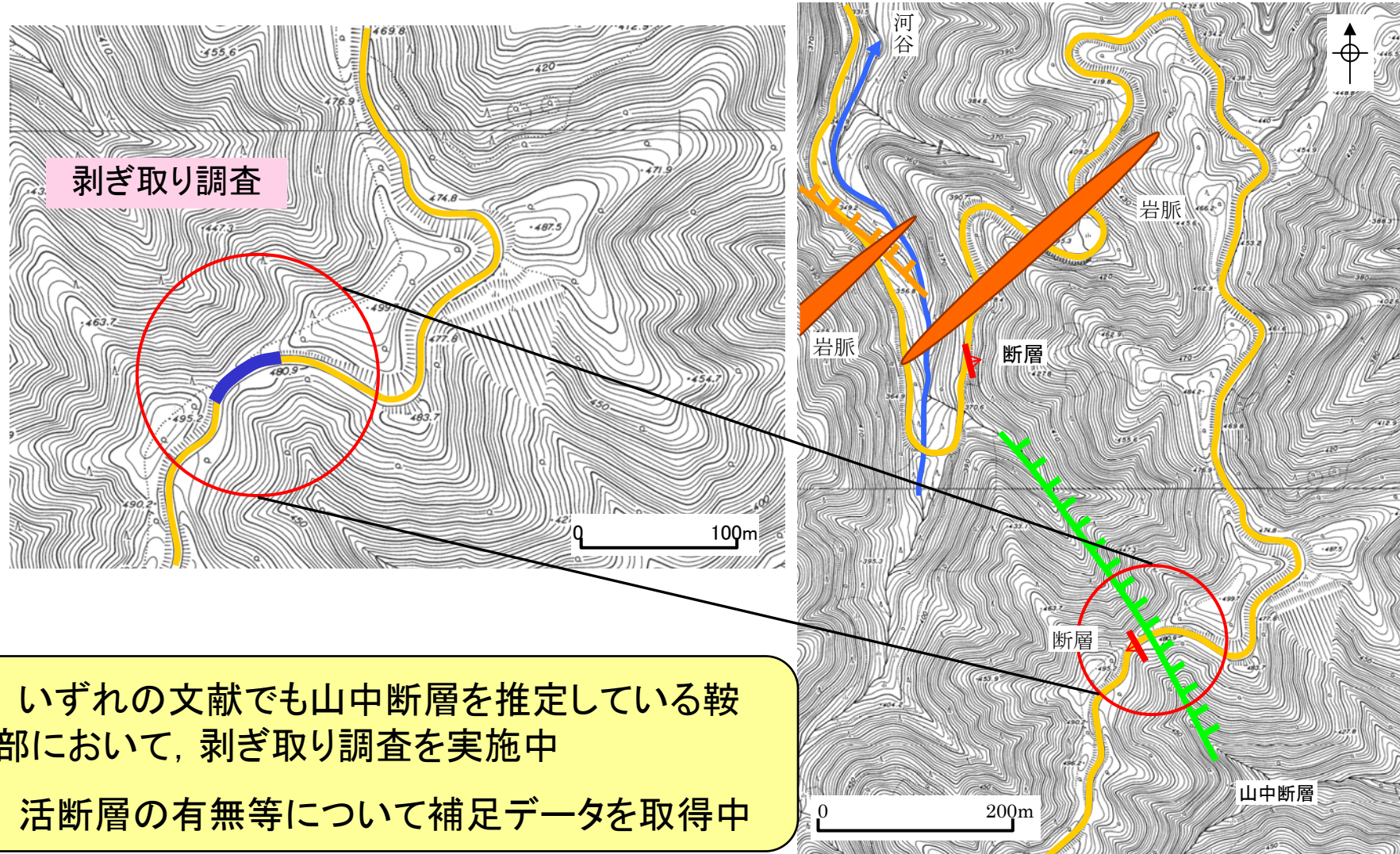
平成20年9月15日

日本原子力発電株式会社
関西電力株式会社
独立行政法人 日本原子力研究開発機構

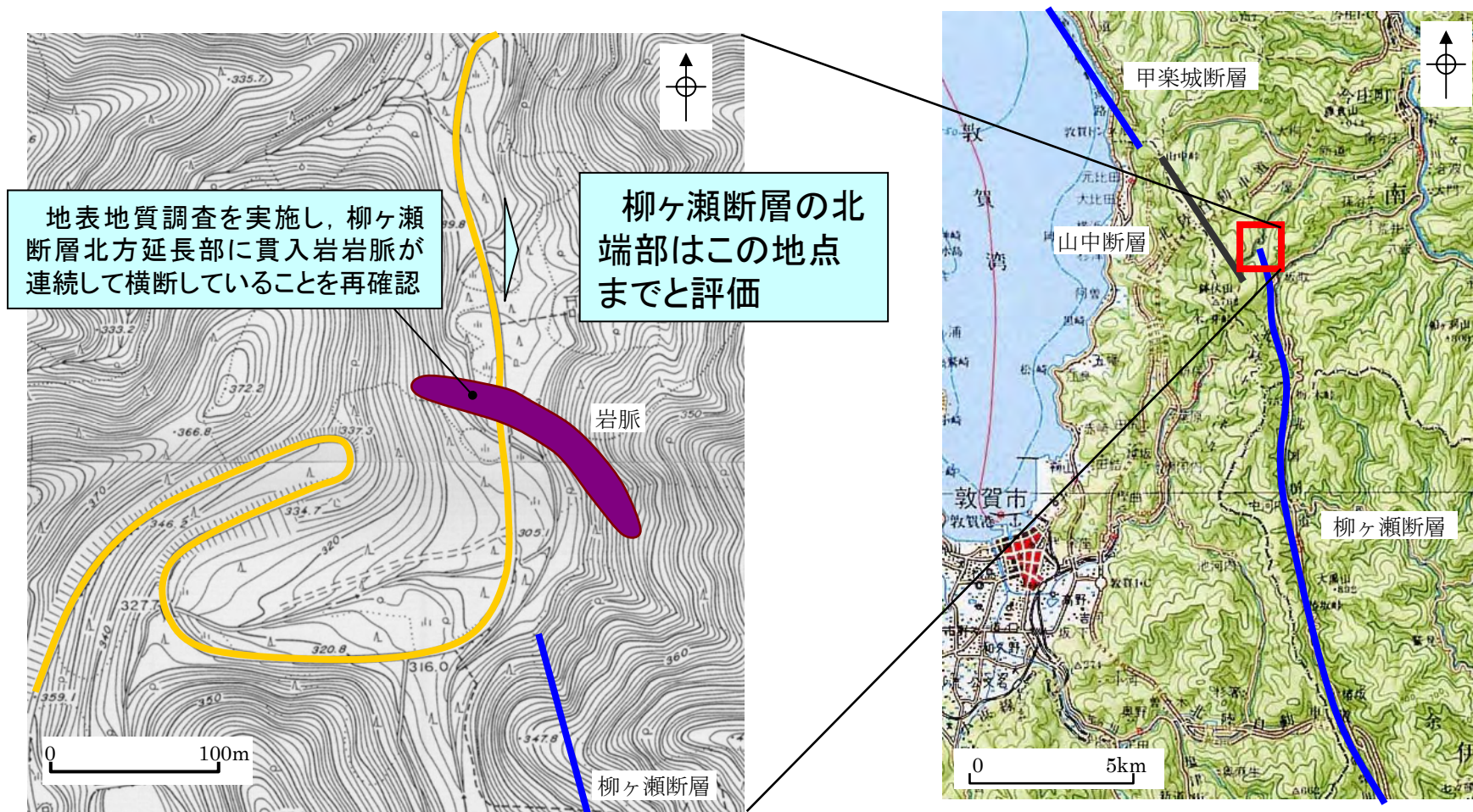
補足の地質調査(山中断層)について



補足の地質調査(山中断層)について



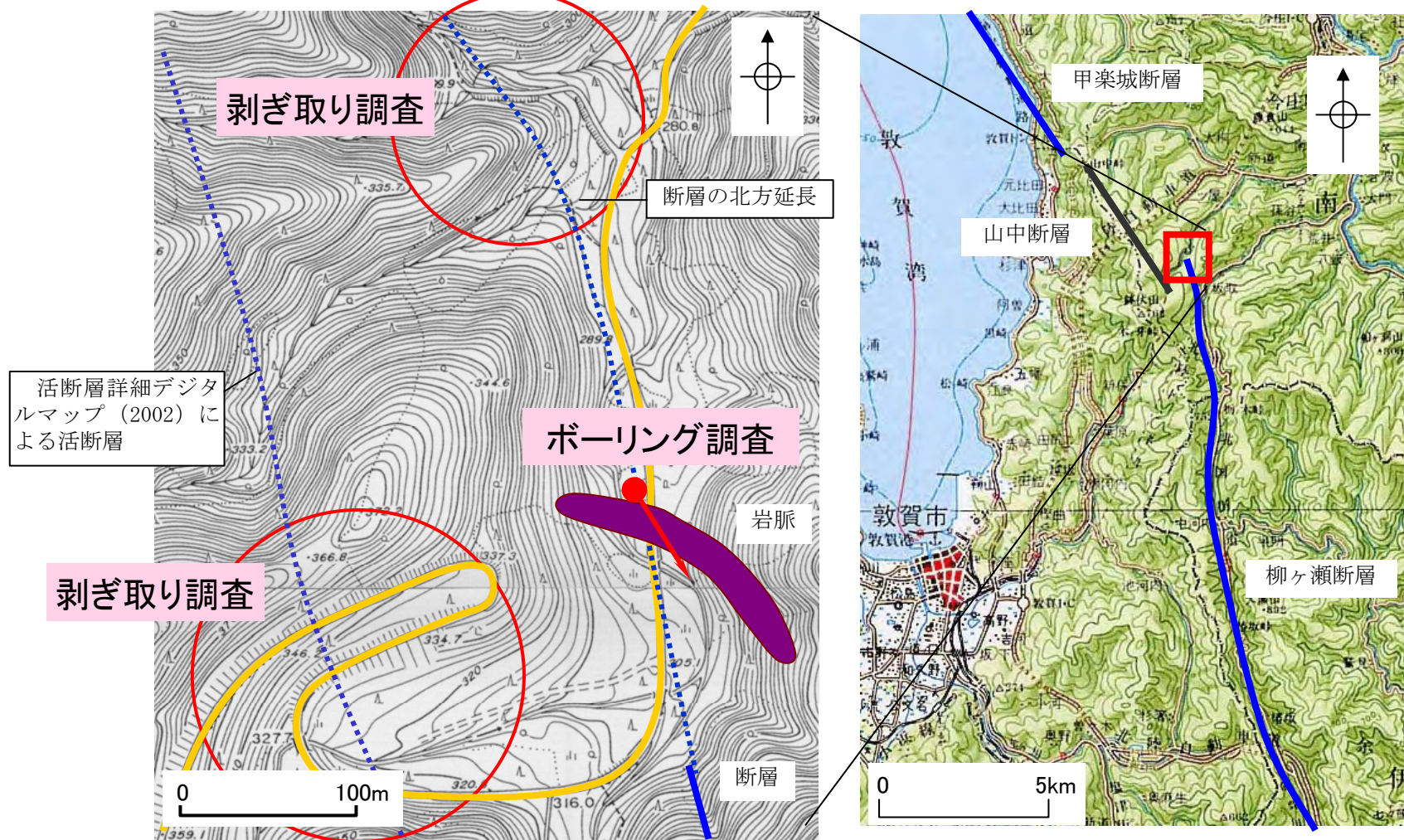
補足の地質調査(柳ヶ瀬断層北端部)について



＜国の現地調査コメント＞
「貫入岩岩脈の連続性については、
より客観性を示せるように確認精度
を向上させることが望ましい」

調査データのさらなる充実、精度向上
を図ることが望ましいと判断し、補足の
地質調査を実施

補足の地質調査(柳ヶ瀬断層北端部)について



柳ヶ瀬断層北端部付近において、ボーリング調査を実施中

柳ヶ瀬断層北端部付近及び文献断層位置における剥ぎ取り調査位置等について検討中

「もんじゅ」敷地内、破砕帯データ補強調査計画

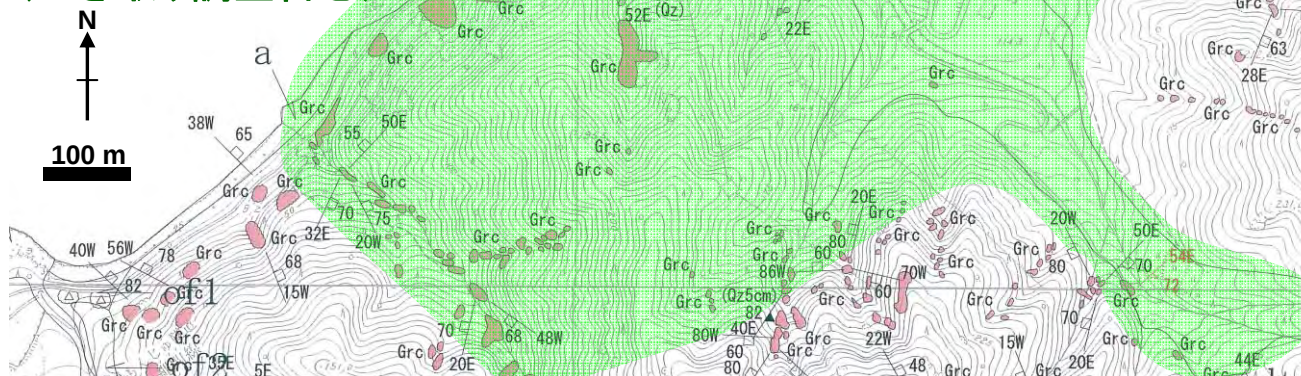
＜国の現地調査コメント＞
「粘土化した部分のテクスチャー（構造）を検討し、古い構造であること、新しい活動がないと言えるデータ補強が必要である。」

連続性を確認すべき破砕帯の推定延長方向

新規ボーリング
(最長約150m、
総延長約700m
を予定)

MBC-9
MBC-10
MBC-14
MBC-11
MBC-13
MBC-12
MBC-7
MBC-8

破砕部性状・連続性の
データ補強のための
地表地質調査
(はぎ取り調査含む)



国の委員会において、
敷地の地質・地質構造について、
変動地形がないこと、
前面海域の音波探査記録に
疑わしい構造が認められないこと、
活断層（白木－丹生断層）と
粘土化した部分の構造や、
破砕部性状が異なり、新しい
活動がないと考えられること等を
説明するとともに、さらなる
データ補強をしていくことを説明

敷地内破砕帯データ補強調査計画検討

敷地の破砕帯が、
白木－丹生断層と、
粘土化した部分の構造・
破砕部性状・分布が
異なり、新しい活動が
ないといえるデータを
補強するため、
・新規ボーリング
・地表地質調査
・ボーリングコア解析
等を実施する。

データ補強の着目点： 破砕帯の連続性の有無
： 逆断層運動の繰り返しが粘土状破砕部に認められるか否か

「もんじゅ」敷地内、破砕帯データ補強調査：現状報告

ボーリング調査(9月11日現在)

孔番	予定深度	掘削深度	進捗	備考
MBC-7	150m	112.5m	掘進中	a、b破砕帯未確認
MBC-8	30m	—	中止	テフラ露頭発見のため
MBC-9	100m	114.0m	掘削完了	105.45-108.15mでf破砕帯確認
MBC-10	60m	83.0m	掘削完了	67.50-68.75m、75.00-76.10mでf破砕帯確認
MBC-11	150m	163.2m	掘削中	f破砕帯は推定出現深度で確認されず
MBC-12	80m	—	中止	MBC-9、10、11、13、14の結果より不要と判断
MBC-13	130m	133.4m	掘削中	f破砕帯は推定出現深度で確認されず
MBC-14	70m	50.5m	掘削中	16.65-20.00mでf破砕帯確認
合計	770m	656.6m		

f破砕帯は、MBC-11、13で確認されないことから、MBC-1の南方に連続しない。
各コアの破砕部性状から、古い構造であり、新しい活動がないといえるデータが補強された。

地表地質調査

敷地南方2地点で破砕帯露頭を確認したが、f破砕帯と比べて小規模であり、
破砕部性状が異なるため、f破砕帯との連続性はない。

敷地内でAT火山灰(2.6-2.9万年前)を含む露頭を確認し、地形面区分の根拠となる年代データを補強した。